

広報ちゅうざん

2月号 平成22年2月1日発行



©fumira

もくじ

医療者と健康管理

二ページ

ようこそ医療相談室へ

三ページ

鍋料理について

四ページ

通所リハビリテーション紹介

五ページ

平成二十二年十二月入退院状況

六ページ

医療者と健康管理

理事長・院長 今村 義典

日本一早い桜も真つ盛りとなり、全国的にはインフルエンザの流行も下降傾向とのニュースが伝わり、大流行に至らず安心していましたが、沖縄県では、インフルエンザの患者さんの発生が続いています。

当院においても、インフルエンザに感染して休む職員が続発し患者さんに迷惑をかけています。

特に医療者は、自分自身の体調や体力に余裕がないと重い障害を持った患者さんを支えるのに気持が虚ろになり、その結果患者さんとの信頼関係が育たずリハビリを拒否されたと平気で居れるのは如何なものかと心配です。

初場所も終わりましたが、武道やスポーツにおいて「気」「気合い」の重要性が言われますように、「気合いの入った」横綱の取り組みには驚くものが伝わってきます。また、「気」を感じる関取は、その場所は立派な成績をあげ関脇・大関・横綱との声もかかり応援しますが、「気」が抜けてる時は惨憺たる成績で気の毒になります。原因として膝や腰を痛めた等の体調不

良を起こし「気」を充実できなかつたように感じられます。

健康で「気持」を充実させ「気」を入れて仕事ができることは、どの様な職業においても共通するものです。

健康管理について、特に昨年から新型インフルエンザ・パンデミックの危険性が世界的に懸念されWHOを中心に対策されていた現状にあつては、医療者として十分予防に努める義務があると感じていました。

一方、ワクチンについては、国の対策が後手後手に回つたよう不安も感じられやきもきました。予測から外れたような形で経過しているのは幸いであつたと思います。

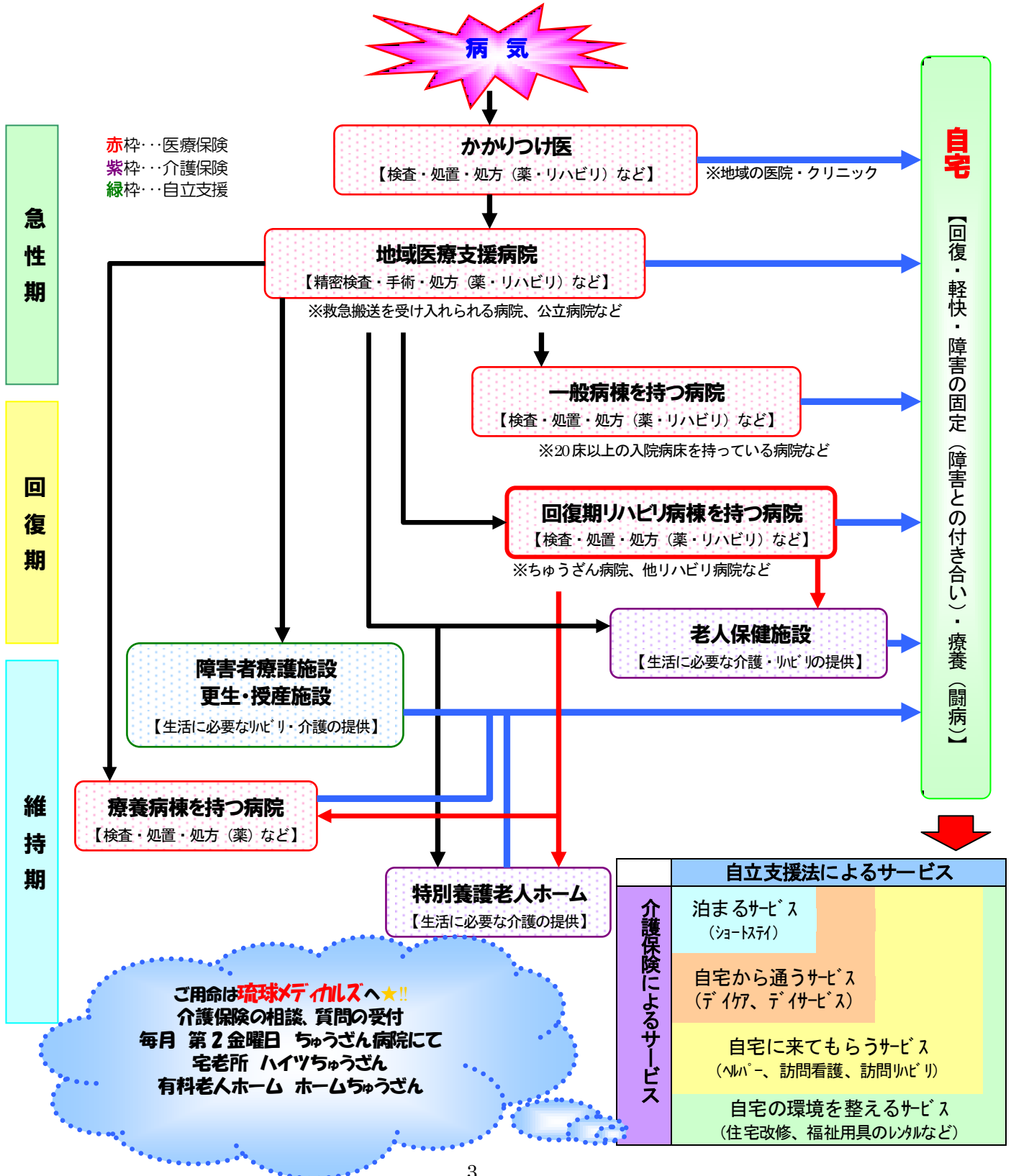
この程度の流行でも次々に職員に感染者が出たことは、分析し今後の対策を病院組織の問題として考える必要があります。健康に対する自己管理と社会・職業人としての責任の遂行は同じ関係にあると考えられます。

障害を持っている患者さんを支え「元氣」を取り戻させるためには医療者自身が健康であることが大切でありますので、日頃から疾病の原因になるような疲労やストレスなど健康に対する自己管理は十分責任をもって気を付けたいものです。

ようこそ医療相談室へ

病気になった時、障害をおった時は心身への負担はもちろん、今後の生活を支える様々な制度の手続きなど、これまでの生活の中では気づかなかった様々な問題に直面します。

そんな時は各病院に設置されている医療相談室をお訪ね下さい。患者様の今後の生活がより豊かなものである為に、医療ソーシャルワーカー（MSW）が皆様のお手伝いをさせていただきます。



鍋料理について

二階A病棟看護師 西野 純栄

鍋料理の歴史は、世界大百科事典によると『実質的には、かなり古くから行われていたと考えられるが、文献上では江戸後期ごろから見られるようになる』と、あります。

いずれにしても、私たちが生まれるずっと前から多くの人たちに愛されてきたということが分かります。

鍋料理には、皆の心や体を温かくする効果があります。そのため、寒い冬にはもってこいの食べ物です。あるテレビ番組で『普段は夕食のときにまったく会話のない家族が、夕飯を鍋料理にしてみたら会話が弾んだ』と、言っていたのをみたことがあります。皆で一つの鍋から食べるので、きっと、皆の心も一つになるのでしょう。

また、鍋料理には、色々な種類ありますが、野菜の栄養分を逃がさずに料理ができるため、体にとっても

いいのが『水炊き』らしいです。

『鍋奉行』などという言葉もあります。これは、皆で鍋料理を作る時にその場を仕切る人のことをいいます。その他の人は、その人の意見に従って食べることが多いです。このように、皆で鍋料理を食べると性格も現れてくるので、今まで以上に友達や家族の事を知りたい機会なると思います。余り仲が良くない人とも、仲良くなる絶好のチャンスです。

また、鍋焼きうどん等一人でたべられるものもあるので、一人きりのときにも温かくなれます。これからは寒い時期がつづきますが、鍋料理をつつきながら寒さを乗り切りましょう。もちろん、いくら鍋料理が良いとはいえ、暴飲暴食にはご注意ください！

通所リハビリテーション紹介

看護師長 伊禮真澄

ちゅうざん病院、通所リハビリテーションは平成五年の老人デイケア開設から始まった取り組みで、開設当初から、医師・療法士・看護師・介護者の専門スタッフで行う評価委員会を開催展開し、利用者納得の評価を目指してきました。

私達ちゅうざん病院は、障害のある高齢者が自立した生活を取り戻すために、リハビリテーション・社会的活動・介護者への支援・社会資源の紹介等のサービスをチームで提供します。

現在の通所リハビリテーションでは、受け持ち制（個々にあったリハビリテーション）の導入と、安全確保を図っています。介護保険法の理念に基づき、要介護状態にある利用者に対し適正な通所リハビリテーションを提供し、総合的かつ効果的に支援する事を目的とします。

☆専門職

介護福祉士・介護者・看護師・准看護師・作業療法士・理学療法士と充実したスタッフで業務を展開します。

☆言語訓練

週の決まった曜日には言語療法士による一時間の言語訓練、嚥下体操があり専門的にアプローチします。

☆趣味活動

エコクラフト、ビーズ工芸も取り組んでいます。

☆入浴

利用者の満足度では圧倒的多数で入浴という声が聞かれ、中でも女性利用者への化粧サービスは好評でいきいきさを支援します。

☆屋外リハ活動

屋外活動として初詣・花見ツアー・お買い物ツアー等、利用者にとって充実したりハビリに取り組みんでいます。

☆年間行事

誕生会、季節行事に行う作品集展示・敬老会・クリスマス会・松本園児との交流会など利用者は年間行事を通し、生きがいづくり、リハビリ意欲、モチベーション(目的意識)向上が期待されます。

☆ボランテアとの交流

積極的に地域交流を促し、三味線・民舞・ダンス・マジックショー等バラエティーに富んだ各種ボランテア導入を継続しています。

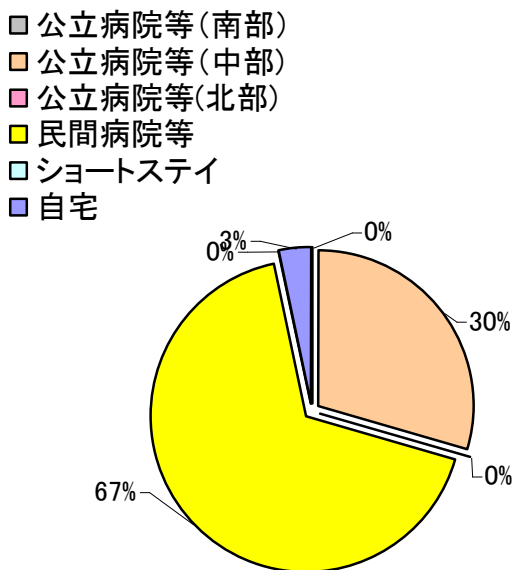
今後もちゅうざん病院通所リハビリテーションは、利用者のニーズを第一としたリハビリを総合的かつ、効果的に支援し地域活動の取り組みもより充実していこうと考えております。

◎通所リハビリテーションを利用するには？

介護保険を利用されている方は担当の介護支援専門員にご相談下さい。

平成21年月 12入退院状況

入院患者数81名



退院患者数90名

